

## 生活援助論Ⅱ：採血の技術演習を行いました

国立看護大学校看護学部 2 年生は、4 月 24-25 日の生活援助論Ⅱにおける、採血の技術演習を行いました。

2 年生は、技術の目的・方法・留意点について講義を受講した後、自己学習をして演習に臨みました。演習の当日は、採血シミュレーター（腕の筋肉や血管を再現したモデル）を用いて「採血」の技術を擬似体験しました。また、看護師役の学生が採血をする間、患者役の学生は駆血（血流を一時的に止め、血管を浮き上がらせる方法）を實際にしてもらい、その間に駆血された腕の感覚がどのように変化するかについても実体験しました。

演習の後、学生のグループメンバーと指導担当の教員で振り返りを行いました。疑問点を明確にするとともに、技術の留意点の意味を確認し、学びを共有しました。学生からは、「採血をしてもらった経験はあるけれども、自分が採血する側になってみて、とても緊張しました」、「技術の注意点、感染予防などについて、一つ一つ大切な意味があることを実感しました」、「患者さんの痛みや不安を最小限にできるように、採血の技術と声のかけ方を、もっと練習していきたいです」などの声が聞かれました。



「先生、ここでしょうか？」採血に適した静脈を探すのは、意外と難しいです。



上腕に駆血帯を巻いてみましょう。



男子学生も頑張っています。



患者役の学生は駆血を模擬体験します。採血にかかる時間も測定しています。



教員の見守る中、モデルを使って「採血」に挑戦しています。



演習の終了後、グループメンバーと教員で振り返りを行っています。疑問点を話し合ったり確認し合っています。



グループで振り返った内容をふまえ、個人の演習記録を完成させています。